

編集 地域医療連携室 〒420-8660 静岡市葵区漆山 860 TEL: 054-247-6251 (代表) FAX: 054-247-5688 (直通)



静岡県立こども病院平成24年五大ニュース

番号	ニュース名	関連セクション	理由	院長のコメント
1	コンフリクト マネージメント 研修開催 (1/14.15、7/21.22)	医療安全 管理室	管理職員60名を対象とした研修会を企画・開催。管理職が一丸となってメディエーション技法の修得に取り組んだ。	ほとんどの管理職が参加し大盛況で中身の濃い2日間でした。参加者の努力に感謝します。
2	第2回 Mt.FujiNetworkForum 開催(3/2.3)	循環器 センター 事務部	国内外の連携病院の現状を報告しあうとともに循環器領域の最新治療についてフォーラムを開催。8カ国から延べ500名程の参加があった。	静岡県立こども病院の質の高さを国際的にアピールできた、すばらしいフォーラムでした。準備にあたったスタッフに感謝します。
3	新病棟オープン (北2病棟改修) (4/1) ※NICUを12→15床に増床	新生児 センター	NICU15床、GCU18床に増床して新病棟がオープンした。病院としても大きな変化だと思えます。	病院の機能をさらに充実させる価値あるプロジェクトでした。工事に伴う感染対策にも大きな教訓を残してくれました。
4	当院で施行したFontan 術後症例の初出産ケース (7/12)	産科	成人先天性心疾患(ACHD)患者の妊娠分娩ケースが増加していくことが予想される中、当院において初の出産ケースを取り扱った。	重症の基礎疾患を持つ子供が成長するのを支援し、分娩にまで立ち会えることはスタッフ全員にとって大きな喜びであります。
5	第28回日本小児外科秋季 シンポジウム大盛会 (11/3) ※当院が当番病院、堀本第 二診療部長が会長、福本 小児外科医長が事務局長 となり開催	麻酔科 小児外科	11/1.2には小児外科関連4研究会を併設した3日間の学会であった。小児集中治療をテーマにしたシンポジウムで全国から多数の小児外科医、集中治療医、麻酔科医が参集した。景気低迷の中、地方病院が主催する学会ではかなりの制約を余儀なくされる場合が多いが、小児外科医の大協力を得て全国レベルの学会を無事に盛会に終えることができた。	当院ならではの特徴あるプログラムで、全国学会を主催できました。こども病院の実力発揮ということで、誇らしいものがあります。



形成外科の紹介

形成外科 朴 修三

こども病院の形成外科は、全身の先天異常疾患(唇裂口蓋裂、耳介異常、体幹、手足の異常)、腫瘍、アザ、血管腫、やけどなどの治療を主に行っています。

- 1) 唇裂口蓋裂
- 2) 手足の先天異常や変形(多指症、合指症、その他)
- 3) 耳の変形(小耳症、埋没耳、副耳、その他)
- 4) 体幹部の異常(臍ヘルニア、臍欠損症)
- 5) あざ、血管腫、腫瘍
- 6) やけどやケロイド
- 7) 傷あとの形成

地域連携と緊急への対応

出生前診断された場合や出生直後に判明した異常などでは電話やメールでの相談も受け付けています。緊急への対応では夜間、休日もオンコール体制をとっており、20~30%を越えるような広範囲熱傷や重度の四肢、顔面の外傷などの早急な治療を必要とするお子さんに対しても救急総合診療科と連携し、治療を行っています。

手術治療について

手術治療やレーザー治療のほとんどを全身麻酔で行っています。本人や家族の精神的な負担なども考慮し、できるだけ入院をしない日帰り手術を適応しています。

トピックス

1) 血管腫のレーザー治療(図1):

平成22年夏に保険適応された最新の血管腫用レーザー(Vビーム)を導入し治療を行っています。本機器は県内の他病院(医院をのぞく)ではまだ導入されておらず、昨年度は137例の治療を行い、今年度は昨年を上回るお子さんの治療を行っています。

2) 母状血管腫へのβブロッカー(プロプラノロール)内服療法

(図2):母状血管腫治療の基本は自然消褪を待つ経過観察ですが、機能障害や醜状変形を残す可能性のある症例などに限定して、βブロッカー内服療法を行っています。本治療法は国内ではまだ保険適応されていないため一般的ではありませんが、2008年に海外で初めて報告された後、多数の推奨する報告がされている治療法で、アメリカFDAでも治療への使用が認められています。静岡こども病院形成外科では院内倫理委員会での承認後、血液腫瘍科と協力して2010年より本治療を約30例に行い、約90%の有効率と多くの著効例を経験しております。

3) 耳介変形に対する保存療法(図3):

乳幼児の耳介軟骨は可塑性が高いため、保存的治療で治療可能な耳介変形があります。特に耳介の上部が側頭部に入り込んでいて将来眼鏡やマスクをかけるのが難しくなる埋没耳変形などでは、早期からの矯正具装着で改善するお子さんが多くおられます。



免疫アレルギー科の紹介

免疫アレルギー科 木村光明

はじめに

当科で診療する免疫疾患は、若年性特発性関節炎、SLE、皮膚筋炎などのリウマチ・膠原病疾患、家族性地中海熱、TRAPS、PFAPA などの周期性発熱症候群、クローン病や潰瘍性大腸炎などの慢性炎症性腸疾患、重症複合型免疫不全などの原発性免疫不全症候群、川崎病などです。アレルギー疾患は喘息やアトピー性皮膚炎、食物アレルギー、薬剤アレルギーなどです。困っている患者さんがおられましたら気軽にご紹介ください。

なお、当科の名称は昨年まで「感染免疫アレルギー科」でしたが、今年から「免疫アレルギー科」となりました。リウマチ疾患など免疫疾患が増加しており、反面、感染症は救急総合診療科や集中治療科で診ることが多くなっているためです。

地域との連携

平成23年度は209名の患者さんを地域の医療機関から紹介していただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

当科から地域の方々へ向けた活動として、年に2回小児アレルギー教室を開催しています。1回は食物アレルギー、もう1回はアトピー性皮膚炎が主題です。一般の方でも参加できますので、地域医療連携室に申し込んでください。

食物負荷試験

当科で診療するアレルギー疾患で最も多いのは食物アレルギーです。食物アレルギーは最近10年ほどの間に診療が合理化され、診断は食物負荷試験の結果で決まります。IgE抗体検査も行われますが、あくまで参考情報です。当科では年間200名ほどの食物負荷試験を実施しています。その結果で食物制限の要否や程度を決定しますが、まったく食べられない子どもはさほど多くありません。

食物アレルギーの減感作療法

食物アレルギーは大きくなれば治るといわれていましたが、実際にはおよそ1~2割の患者さんは年長になっても治らないことがわかってきました。そのような患者さんには減感作療法（免疫療法）を行い、積極的に免疫寛容の誘導を試みるのが最近の治療法です。2週間程度の短期間の入院で目的の量まで増量するものを急速減感作療法と呼びます。当科でも今年度から急速減感作療法を実施しています。

小児リウマチセンターとしての役割

当科では約50名の若年性特発性関節炎（JIA）の患者さんを診療しており、静岡県内での小児リウマチセンターとしての役割を担っています。整形外科医師との連携はもちろん、リハビリ部門も充実しており、入院が長くなる場合には院内学校もあります。JIAの治療は過去10年ほどで劇的に進歩し、従来は手の施しようがなかった重症患者さんも新薬の登場で治療成績が向上しています。最近は関節の変形や成長障害が残る患者さんはほとんどいなくなりました。

川崎病治療に関する多施設共同研究

川崎病は発熱などの急性期症状が治まった後、一部の患者さんに心臓の冠動脈に後遺症を残すことがあり、その予防が大きな課題になっています。当科は静岡県内の10数か所の病院と連携し、川崎病のよりよい治療方法を見つけるための共同研究を行っています。研究の成果は新しい治療手順の開発に生かされています。現在、採用されている治療手順の成績は全国平均より優れたものになっています。

静岡県立こども病院への受診について

1. 医師による完全紹介予約制

こども病院は、地域医療支援病院です。

当院への初診は、地域の病院・診療所等の先生(医師)からの完全紹介予約制です。

医師以外の方からの紹介状(診療情報提供書)では受診できません。

2. 初診の対象年齢

当院の初診の対象年齢は、15歳(中学3年生)までになります。

周産期医療に関しては、年齢制限はありません。

ご紹介方法は、以下のいずれかの方法でお願い致します。

① 通常の場合

紹介状(診療情報提供書)に、ご希望の診療科、必要事項等をご記入の上、

静岡県立こども病院地域医療連携室(下記参照)に郵送して下さい。

※予約票は、患者さまのご自宅に郵送いたします。(マンション等の場合は、マンション名などのご記入をお願いします。)

当院専用封筒、紹介状もご用意してありますので、ご希望の方は、下記までご一報下さい。

紹介状(診療情報提供書)は、当院専用のものでなくても構いません。

☆受診日は、当院よりご家族に外来予約票等を郵送にてお知らせ致します。

② 早急に受診が必要な場合

地域医療連携室に電話連絡をいただいた後に、

紹介状をFAX(054-247-5688<連携室直通>)して下さい。

☆担当医と相談の上、予約日を患者様にご連絡致します。

③ 緊急の受診・入院依頼の場合

担当科の科長へ直接ご連絡下さい。(Tel054-247-6251(病院代表))

手術などで医師と直接連絡がとれない場合には、地域医療連携室でご用件を伺います。

☆早急に対応致します。

④ 土・日・祝日の場合

緊急の受診と同様に病院代表に連絡して下さい。

日・当直医もしくは各担当科医師が対応します。

問い合わせ先

〒420-8660 静岡県静岡市葵区漆山860番地

静岡県立こども病院 地域医療連携室 TEL054-247-6251(代表) fax054-247-5688

● 講演会のお知らせ ●

2月19日(火) 18:00～ 会場：こども病院大会議室

テーマ：子どもと家族にとっての「在宅ケア」

講師：名古屋大学医学部保健学科看護学専攻
発達看護学講座 教授 奈良間美保先生

3月7日(木) 18:30～ 会場：こども病院大会議室

テーマ：小児の造血幹細胞移植～適応と変遷をふまえて～

講師：血液腫瘍科 岡田雅行医師

3月13日(水) 18:00～19:30 会場：こども病院大会議室

テーマ：医療ネグレクト～判断と対応～

講師：和歌山県立医科大学 教授 柳川敏彦先生

こども病院HP <http://www.shizuoka-pho.jp/kodomo/>
「病院セミナー」にも講演会情報を掲載しています。

